

平成30年度 学校評価計画表

奈良県立郡山高等学校

教育目標		幅広い知識と教養を身につけ、主体的に学ぶ態度と、正しい判断力と強い意志を養い自律的な生活態度を育成する。豊かな人間性や社会連帯の精神、国際社会に生きる資質を養うなど、民主的な社会の創造と発展に貢献できる豊かな人間性と創造性をそなえた人材の育成を目指す。						総合評価
運営方針		「誠実・剛毅・雄大」の校訓の精神と文武両道を奨励する校風のもと、個々の生徒の自己実現に向けて、確かな学力の定着を図る指導、自主的な学習態度や自律的な生活態度を高める指導の徹底を図る。						
○昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標				
すべての教科において、生徒の満足度は高く、アクティブラーニングの取り入れ方も、適切であった。さらに、学ぶ意欲をかき立てる授業の展開が必要である。学習面、部活動など、すべての活動において学舎統合による成果を出せるように取り組んでいきたい。	キャリア教育を充実させ、生徒の進路実現を図る。		進路に関する情報提供等を充実させ、自己を客観的に見つめさせることにより、早期より具体的な将来の進路（第一志望）を考えさせる。					
	生徒の意欲や思考を引き出す授業を工夫し、主体的・探求的な学びを提供する。		第1学年で基礎・基本を固めるとともに、予・復習を習慣化させる。時間を有効に使う学習を定着させる。また、校内研究授業や自己研修等を通して指導者の授業力を向上させる。					
	学習と部活動の両立が図れる指導をめざす。		学習においては集中力を養い、目標を貫徹し継続して取り組む強い意志力を育てる。部活動においては、教科担当と部活動顧問が常に連携し、効率的な活動となるための工夫を図る。					
	豊かな人間性と創造性の育成に努める。		学校行事、生徒会活動、HR活動及び読書活動等の精選と充実を図る。					
	社会の一員として自立するため、シティズンシップ教育を推進する。		基本的な生活習慣を確立させ、校内外の生活全般にわたってマナーと、整理整頓の習慣を身に付けさせる。また、学校行事や地域への積極的な貢献を推進する。					
評価項目	具体的目標（評価小目標）	具体的方策	評価指標	中間期（9月）		年度末（3月）		
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等
学習指導	観点別評価の導入に向けた授業の充実	観点別評価の導入を図るため、単元ごとや授業ごとの評価方法を研究する。	昨年度と比較して観点別評価をした機会が増えたと答えた職員の割合が70%以上ならA、50%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。					
進路指導	進路目標の明確化と向上心の維持	授業への取り組みに加えて、進路指導部主催の進学講習・夏期講習等への自主的、積極的な参加を促す。	各講習において、参加申込をした生徒の出席率が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満ならDとする。					
		各学年のそれぞれの段階で、将来を見据えて自ら努力目標を設定し、最後までやり抜いていく力を培う。	生徒実態調査において、「自己の目標に対してよく努力できた」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満ならDとする。					
生徒指導	規範意識、公共心の向上	学校生活のあらゆる場面で挨拶の励行を促す。	挨拶に関するアンケートを生活委員に実施し、「本校生が教員や来校者に対し、自ら積極的に挨拶をしており、友人同士においても心地よく挨拶を交わしていると思う」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、70%以上ならB、60%以上ならC、60%未満ならDとする。					
特別活動	自主的・自発的な活動を通じた、豊かな人間性の育成	学校行事、HR活動、部活動に積極的に取り組み、活力ある生活を実践できる環境を整える。学舎統合による利点を活かすことによって、生徒の活動の視野を広げる。	生徒実態調査により、「学校行事やHR活動、部活動を自主的・自発的にすすんで実践することが出来た」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、45%以上ならC、45%未満ならDとする。					

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
人権教育	豊かな人間性の育成を目指した、人権HR活動の充実	自他の人権を尊重する資質と能力を身に付けさせるため、アクティブラーニングにさらに工夫を加えて、主体的な人権学習を実施する。	全学年で各学期とも、昨年度の指導案にさらに工夫を加えたアクティブラーニングを取り入れることができればA、2つの学年ができていればB、1つの学年のみではC、どの学年もできていない場合はDとする。					
教育相談	予防的、開発的な教育相談活動の充実	教育相談活動の充実に役立てられる情報を提供するため、教員向け広報紙「相談室より」を毎月発行する。	教員アンケートにおいて、「『相談室より』を日頃の教育活動の実践に役立てることができた」と答えた教員の割合が60%以上ならA、40%以上ならB、30%以上ならC、30%未満ならDとする。					
保健体育	生涯を通じて健康な生活が実践できる力の育成	「保健だより」を活用しながら、怪我・疾病予防など、健康への関心を高める。	生徒実態調査において、「保健だより」を毎月読んで、「怪我・疾病予防などに生かされた」と答えた生徒の割合が60%以上ならA、40%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。					
	たくましい体力の育成、活動の充実	体育に関する行事「新体カテスト・体育大会」等を実施し、体力の向上および活動の充実を目指す。	生徒実態調査において、「新体カテストの結果を受けて・体育行事への参加のしかたなど、自己の体力を少しでも高められた」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、70%以上ならB、50%以上ならC、50%未満ならDとする。					
文化図書	豊かな人間性の育成を目指した読書活動の推進	読書HR、ビブリオバトル、図書館だより「共慶」、ポスター掲示などとおして、読書活動への意欲を高める。	読書HR後のアンケート及び生徒実態調査において、いろいろな読書啓発活動から、「読みたい本が見つけられた」と答えた生徒の割合が70%以上ならA、60%以上ならB、50%以上ならC、50%以下ならDとする。					
環境整備	生徒の自主的な活動による学校美化の向上	美化委員により、生徒が共同利用する場所の清掃状況を定期的に点検し、問題がある場所の担当クラスの美化委員がそのクラス全体に改善を呼びかけ、清掃を強化する。	生徒実態調査において、「清掃当番のとき、清掃活動にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が50%以上ならA、30%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。					
広報・情報	ホームページ、連絡メール、学校案内、広報誌等、情報発信の充実	ホームページ、メールシステムを活用し、行事の周知により、カウンセリングの日程、保護者向けの学校行事等の情報を広く周知させる。	保護者アンケートにおいて「ホームページや連絡メールで配信される情報が役に立っている」と答えた保護者の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。					
事務・管理	城内学舎閉鎖に伴う光熱水費増加の抑制	今年度から全学年が本校で学ぶことで光熱水費の使用料増加が見込まれる。生徒・教職員の健康管理を優先しながら、電気器具、水道等の無駄な使用がないかを管理し、環境への配慮からも使用料増加を最小限に抑える。	平成29年度の使用料と比較して、15%以内の増加ならA、15~20%以内ならB、20~25%以内ならC、25%以上ならDとする。					